



Silent BRASS

ST5: Personal Studio

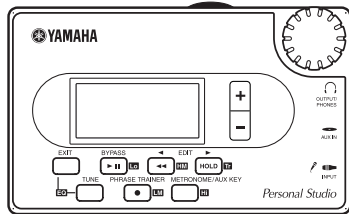
取扱説明書

Owner's Manual

Bedienungsanleitung

Mode d'emploi

Manual de instrucciones




安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもおお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

記号表示について

 記号：危険、警告または注意を示します。

 記号：禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

 記号：行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。



警告

この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。



この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。感電や火災、または故障の原因になります。



使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出た場合、あるいは異常に大きな雑音が出る場合はすぐに電源を切るか、電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、

感電や火災のおそれがあります。



電源アダプターは、PA-D09を使用する。

(異なった電源アダプターを使用すると故障、発火などの原因になります。)



濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。



大音量や不快なほどの音量で長時間使用しない。

この機器を単独で、あるいはヘッドホン、外部アンプ、外部スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては永久的な難聴になる程度の音量になります。万一、聴力低下や耳鳴りなどを感じたら、専門の医師に相談してください。



注意

この表示内容を無視した取り扱いをすると、障害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。



電源アダプターコードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源アダプターコードに重いものをのせない。電源アダプターコードが破損し、感電や火災の原因になります。



電源プラグを抜くときは、電源アダプターコードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源アダプターコードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。



タコ足配線をしていない。コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。



電源アダプターコードやプラグがいたんだときは使用しない。また、長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電、ショート、発火などの原因になります。



他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にし、イヤホンを目からはずす。感電や機器の損傷、または聴覚障害のおそれがあります。



直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。



手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。プラグが変形するおそれがあります。



テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



不安定な場所に置かない。機器が転倒して故障したり、お客様が刃物をしたりする原因になります。



本体を移動するときは、必ず電源アダプターコードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。



本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック製品などを置かない。本体が変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。



本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。本体が破損する原因になります。



大きな音量で長時間イヤホン(ヘッドフォン)を使用しない。聴覚障害の原因になります。



他機器から雑音を受ける場合は、距離・向きなど保持方法を変えたり、別のコンセントを使う、または電池で動作させる。本製品は蛍光灯、調光器あるいはモーターなどの近くでは雑音が出ることがあります。またテレビやラジオの放送施設の近くでは電波による雑音が出る場合があります。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

長時間使用しないときは、必ず電源を切りましょう。

はじめに

このたびは、ヤマハサイレントプラス用パーソナルスタジオ ST5 をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

本機は、**ヤマハピックアップミュートと組み合わせる**ことで、“外部には高い消音性を、演奏者には良質の演奏音を”というサイレントプラスシステムをセットアップするためのものです。演奏者は演奏音を単にモニターするだけでなく、リバーブやディレイ、コーラス、イコライザ、ピッチシフターなどのエフェクトを活用して、練習だけでなくホームコンサートや録音など音楽の幅を大いに広げることができます。また、**ヤマハピックアップマイクとも組み合わせる**ことができるので、ホールや屋外での用途にも幅広くお使いいただけます。

本機の優れた機能を使いこなしていただくために、この取扱説明書をご活用いただき、ご一読いただいた後も不明な点が生じた場合に備えて、大切に保管されますよう重ねてお願い申し上げます。

もくじ

はじめに	4
主な特長	6
同梱品の確認	7
音を出す準備(電源の準備)	8
■ 電源アダプターでご使用になる場合	8
■ 乾電池でご使用になる場合	8
各部の名称	10
ディスプレイの表示	12
接続のしかた	14

ST5 を使ってみよう	16
■ 音を出してみよう	16
■ エフェクトプログラムを変えてみよう	17
● バイパス/ミュート	17
■ エフェクトプログラムをエディットしてみよう	18
■ 作ったプログラムを保存しよう	21
● イニシャライズ(初期化)のしかた	22
■ バリュースライダーと+/- ボタンに 各機能を割り当てよう	23

チューナーモード	24
メトロノームモード	25
イコライザモード	26
AUX キーモード	27

フレーズトレーナーモード	28
■ 録音の手順	28
■ 再生	29
■ 録音し直すときは	30

エフェクトの解説	31
● DYNA(ダイナミクス)	31
● EQ(イコライザ)	31
● MOD(モジュレーション)	32
● D/R(ディレイ&リバーブ)	33
● NR(ノイズリダクション)	34
● LEVEL(レベル)	34

故障かな?と思ったら	35
プリセットプログラムリスト	36
メトロノームパターンリスト	37
仕様	38

主な特長

- **管楽器の音楽の幅を広げるデジタルエフェクトプロセッサ**
本機は、ヤマハピックアップミュートやヤマハピックアップマイクと組み合わせることで、管楽器の効果的な練習や、演奏の幅を増やすことが可能になります。ピックアップした音に、様々な効果(エフェクト)や音質の変化を加えることで、今までのジャンルを越えた、新たな音楽性を予感することでしょう。

- **32種類のエフェクト**

緻密な音質調整ができる4バンドイコライザを初めとし、コンプレッサー、リミッター、コーラス、リバーブ、ディレイ、さらには音程を変えられることができるピッチシフターなど、32種類ものエフェクトを内蔵しています。

- **50種類のプリセットプログラムと、50種類のユーザープログラム**

数々のエフェクトを組み合わせた50種類のプリセットプログラムと、オリジナルのプログラムを保存できる50種類のユーザープログラムを用意しました。個人練習やアンサンブル、録音などの様々な場面に合った音を得ることができます。

- **AUX キー機能**

AUX IN端子に接続したCD/MDプレーヤーなどの音を、練習しやすい調に移調(トランスポーズ)できます。

- **フレーズトレーナー機能**

CD/MD プレーヤーなどの音や、自分の演奏音を最大16秒間録音し、繰り返し再生することができます。音程を変えずに再生スピードだけを落とすこともできるので、聞き取りにくいフレーズの練習に役立ちます。

- **その他の便利な機能**

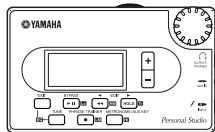
楽器の調を選んでチューニングできるオートチューナー機能、テンポキープの練習に便利なメトロノーム機能、暗い場所でも操作しやすいディスプレイのバックライト、素早い設定が可能な大型バリュウダイヤルなど、その他豊富な機能を内蔵しています。

同梱品の確認

梱包箱の中には、以下の同梱品が入っています。

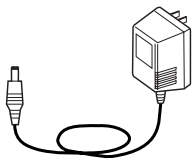
使用する前に、すべての同梱品が揃っていることを確認してください。

パーソナルスタジオ ST5



電源アダプター

* 販売地域によっては、電源アダプターが付属していない場合があります。

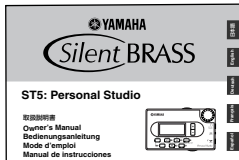


プラグアダプター

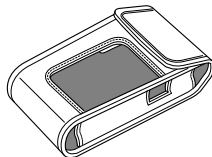
ピックアップミュートと、ピックアップマイクをST5に接続するときは、必ずこのプラグアダプタを介して接続してください。



取扱説明書(本書)

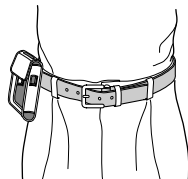


ソフトケース



ソフトケースの使い方

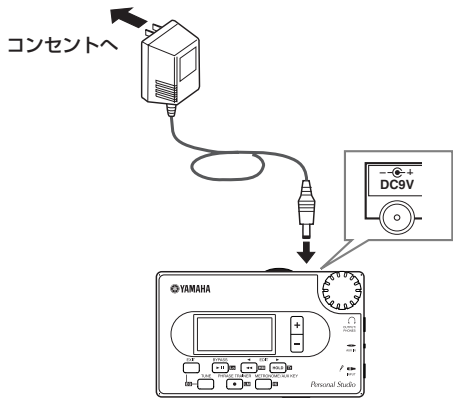
ソフトケース裏側のバンドをベルトに通して使用します。



音を出す準備(電源の準備)

■ 電源アダプターでご使用になる場合

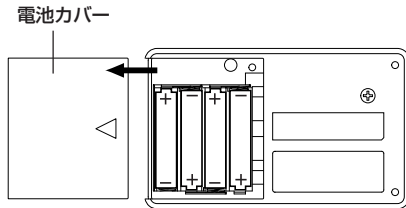
本体の電源スイッチがOFFになっていることを確認して、付属の電源アダプター(PA-D09)を本体の電源アダプター端子に接続します。



■ 乾電池でご使用になる場合

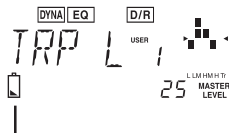
本体の電源スイッチがOFFになっていることを確認して、本機裏側の電池カバーを、矢印の方向にスライドして外します。

単4型アルカリ乾電池4本を図のように入れます。+/−の向きを間違えないように注意してください。



バッテリーエンプティ表示

乾電池の容量が少なくなると、バッテリーエンプティアイコンが点灯します。アイコンが点灯したら、できるだけ早く乾電池を交換してください。プログラム等は、バックアップ機能により、乾電池を外しても消えませんが、(エディット中のものは除く)



バッテリーエンプティアイコン

- * 使えなくなった乾電池は本機から外してください。そのままにしておくと、故障の原因(電池の液漏れ等)となります。また、長時間ご使用にならないときも、乾電池を本機から外しておいてください。

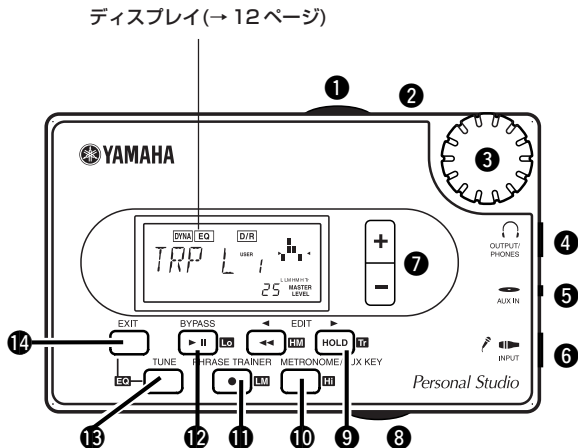
●音楽を楽しむエチケット●



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣り近所への配慮を十分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

各部の名称



① 電源スイッチ(OFF/ON/バックライト)

本機の電源スイッチです。「ON」にすると電源が入ります。「LCD」にするとディスプレイのバックライトが点灯します。

* 電池で使用した場合、バックライトをONにすると、電池の消耗が早くなります。

② 電源アダプター端子(DC9V)

付属の電源アダプターをここに接続します。

* 販売地域によっては、電源アダプターが付属していない場合もあります。

③ バリュースダイヤル

マスターレベルの調整やエフェクトのエディット、プログラムの選択に使用します。

4 OUTPUT/PHONES 端子

本機の出力端子です。イヤホンまたはヘッドフォンをこの端子に接続します。この端子は外部出力端子も兼ねていますので、オーディオケーブルで接続すれば、外部アンプで鳴らしたり、テープレコーダーに録音することもできます。

5 AUX IN 端子

この端子とCD/MD プレーヤーなどの外部機器の出力端子から市販のオーディオケーブルで接続すると、外部機器の音をバックに演奏することができます。

6 INPUT 端子

本機の入力端子です。ヤマハピックアップミュートや、楽器用ピックアップマイクなどを接続します。

* INPUT端子は電源供給も兼ねていますので、ヤマハピックアップミュート、ピックアップマイク以外は接続しないでください。

7 + / - ボタン

各プログラムの選択やエフェクトのエディット、マスターレベルの調整に使用します。

* 3 のバリュースダイヤルとこの3つの機能を入れ替えることができます。(→ 23 ページ)

8 入力レベルスイッチ (Lo/Hi)

接続するピックアップミュートやピックアップマイクの出力音量に合わせて選択します。(→ 15 ページ)

9 EDIT <[◀◀]/▶▶] [HOLD] ボタン

編集するパラメーターの選択(→ 20 ページ)や、フレーズトレーナー操作(→ 28 ページ)の際に使用します。

10 METRONOME/AUX KEY ボタン

メトロノームモード(→ 25 ページ)、またはAUXキーモード(→ 27 ページ)に入ります。

11 PHRASE TRAINER [●] ボタン

フレーズトレーナーモード(→ 28 ページ)に入ります。また、フレーズトレーナーの録音を開始するときも、このボタンを押します。

12 BYPASS [▶▶] ボタン

すべてのエフェクトがOFFになります。また、エディット時のエフェクトのON/OFF や、フレーズトレーナーの再生 / 一時停止にも使用します。

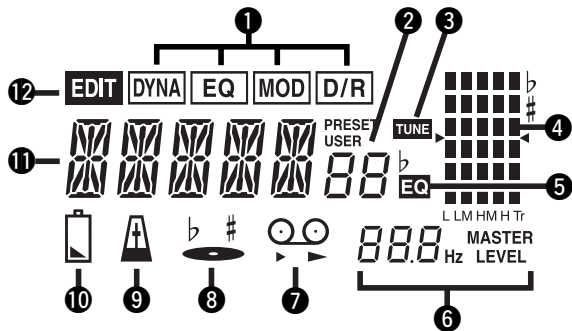
13 TUNE ボタン

チューナーモード(→ 24 ページ)に入ります。

14 EXIT ボタン

現在いるモードから抜けて、通常のプレイモードに戻る際にこのボタンを押します。

ディスプレイの表示



① エフェクトブロック

ダイナミクス、イコライザ、モジュレーション、ディレイ/リバーブの各エフェクトブロックのON/OFFを表示します。

② プログラムナンバー表示

現在選ばれているプログラムの情報(プリセット/ユーザー、プログラムナンバー)を表示します。

③ TUNEアイコン

チューナーモードのときに点滅します。

④ イコライザディスプレイ

イコライザモードやイコライザがONのときには、各バンド(音域)の音量を表示します。他のモードでは音名や拍子などを表示します。

⑤ EQアイコン

イコライザモードのときに点滅します。

⑥ バリュースタイルディスプレイ

マスターレベルやエフェクターの設定値などを表示します。(マスターレベルを表示しているときは、**MASTER LEVEL** が点灯します。)

⑦ フレーズトレナーモードアイコン

フレーズトレナーモードのときに点滅します。

⑧ AUXキーモードアイコン

AUXキーモードのときに点滅します。

⑨ メトロノームモードアイコン

メトロノームモードのときに点滅します。

⑩ バッテリーエンプティアイコン

乾電池の容量が少なくなったときに点灯します(→9ページ)。

⑪ プログラム名/エフェクトタイプ表示ディスプレイ

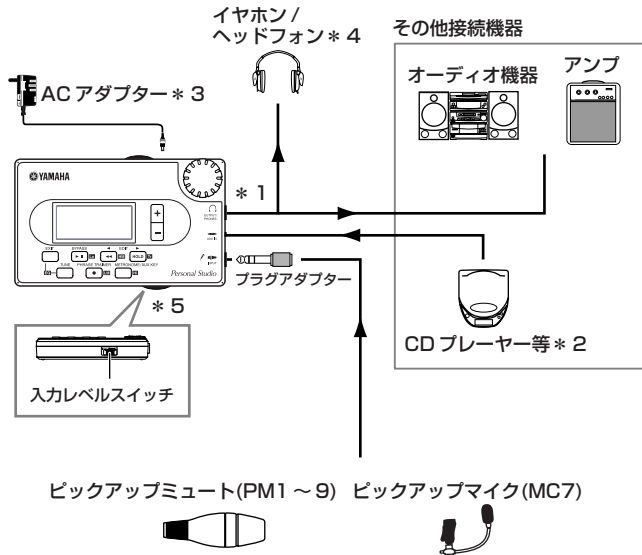
プログラム名やエフェクトタイプを表示します。チューナーモード時にはチューナーのメーターにもなります。他のモードでは各機能の状態を表示します。

⑫ エディットモードアイコン

エディットモードのときに点滅します。

接続のしかた

接続は、本機や接続する機器の電源を OFF にしてから行ってください。



- *1 OUTPUT/PHONES端子は、ステレオ出力になっています。モノラルケーブルでアンプなどに接続した場合、Lチャンネル(左側)の音が出力されます。
- *2 この端子と、CD/MDプレーヤーなどの外部機器の出力端子を市販のオーディオケーブルで接続すると、外部機器の音をバックに演奏することができます。音量は外部機器のボリュームで調整してください。
- *3 電源アダプターを使用する場合は、必ず指定のもの(PA-D09)を使用してください。電源プラグは、奥までしっかりと差し込んでください。
- *4 使用するイヤホン/ヘッドフォンによっては、音量、音質が多少異なって聞こえることがあります。

ピックアップミュート/ピックアップマイク接続時の注意

- ・ 本機には入力レベルスイッチ[*5]が内蔵されております。接続する機器の出力(Lo=小出力用、Hi=大出力用)に応じてスイッチを切り替えてください。初めは「Lo」ポジションで演奏をし、音が歪むようでしたら「Hi」ポジションに切り替えてください。
- ・ INPUT端子は、ヤマハピックアップミュート、ヤマハピックアップマイクへの電源供給も兼ねていますので、ピックアップミュート、ピックアップマイク以外は接続しないでください。

ST5 を使ってみよう

準備が整ったら、電源を入れて音を出してみましょう。

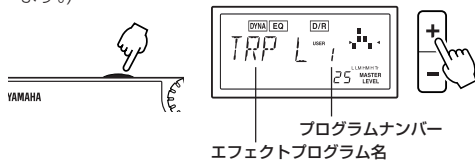
ST5では、INPUT端子に接続したピックアップミュート/マイクからの信号に様々なエフェクト(効果)を付けて鳴らすことができます。ST5にはそれらのエフェクトを組み合わせたプログラム(プリセット50種類、ユーザー50種類)が内蔵されているので、まずはそれらのプログラムを使って音を出してみましょう。

電源スイッチを操作するときは、必ずイヤホンを耳からはずし、あるいは外部アンプのボリュームを最小にした状態で行ってください。

■ 音を出してみよう

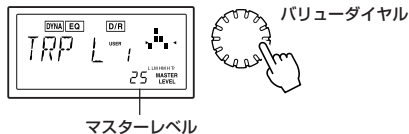
- 1 電源スイッチを ON にします。

ディスプレイにエフェクトプログラム名とプログラムナンバーが表示されます。(この状態をプレイモードといいます。)



- 2 楽器を演奏します。

演奏しながら、ボリュームダイヤルで出力音量(マスターレベル)を調整します。

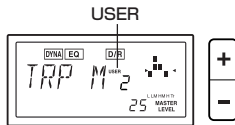


* 音が歪むようでしたら、入力レベルスイッチを「Hi」ポジションに合わせて、もう一度マスターレベルを調整してください。

■ エフェクトプログラムを変えてみよう

本機には、50種類のプリセットプログラムと、50種類のユーザープログラムが用意されています。それぞれのプログラムには、様々なジャンルや用途に合わせて色々な音響効果が組み合わされています。まずは演奏しながらプログラムを変更して、ST5の音を聞いてみましょう。

- 1 +/−ボタンを使用して、好みのプログラムを選びます。
各プログラムナンバー/プログラム名とその内容については、36ページを参照してください。
現在選ばれているプログラムの種類(プリセット/ユーザー)が、プログラムナンバー表示の上に表示されます。



ユーザープログラムの場合

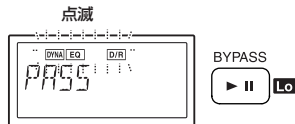
- * プログラムは、エフェクトのエディット中、チューナーモード時は変更できません。
- * マスターレベルアイコンが点灯しているときは、ボリュームダイヤルでマスターレベルを変更できます。+/−ボタンでマスターレベルを変更する設定に切り替

えることもできます。(→ 23 ページ)

- * 工場出荷時のユーザープログラム(1~50)には、プリセットプログラム(1~50)と同じ内容が入っています。

● バイパス/ミュート

BYPASS ボタンを押すと、バイパス(エフェクトがかからない状態)になります。ディスプレイのエフェクトチェーン表示が点滅し、“PASS”と表示されます。エフェクトの効き方を確認するときに便利です。



BYPASS ボタンを1秒以上押すと、ミュート(音が出ない状態)になります。ディスプレイのエフェクトチェーン表示が早く点滅し、“MUTE”と表示されます。アンプなどからの音を、一時的に止めるときに便利です。

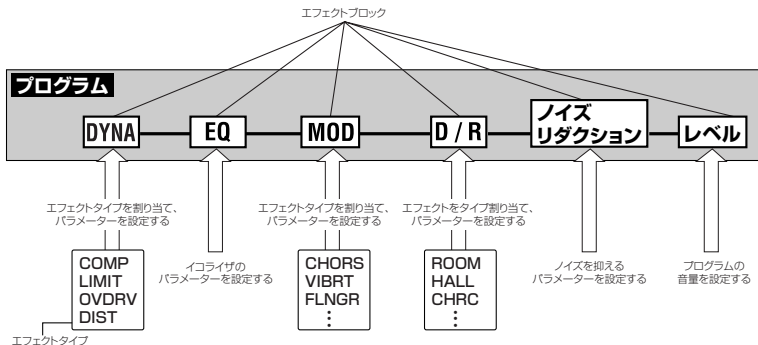
バイパス/ミュートを解除するには、もう1度BYPASS ボタンを押すか、EXIT ボタンを押します。

■ エフェクトプログラムをエディットしてみよう

本機には32機種のエフェクトを内蔵し、その各設定値を変更したものがプリセットプログラムとして50種類用意されています。そのプログラムを変更して、オリジナルのプログラムを作ってみましょう。作ったオリジナルのプログラムは、ユーザープログラムに上書きして保存します。

プログラムの成り立ち

プログラムは、下図にあるように6つのエフェクトブロックを様々な組み合わせた形で構成されています。個々のエフェクトブロックでエフェクトタイプを選び、そのパラメーターを設定して効果の効き具合を変化させます。最大で6種類のエフェクトブロックを同時に機能させることができます。各エフェクトブロックのエフェクトタイプとエフェクトパラメーターは31ページを参照してください。



DYNA ブロック

4タイプ(COMP, LIMIT, OVDRV, DIST)からエフェクトタイプを割り当てます。割り当てたエフェクトのパラメーターを調整して、その効き具合を設定します。

EQ ブロック

4バンド(Low, L-MID, H-MID, HIGHと TRIM)のイコライザです。バンドそれぞれのパラメーターを調整して音質を設定します。

MOD ブロック

12タイプ(CHORS, VIBRT, FLNGR・・・)からエフェクトタイプを割り当てます。割り当てたエフェクトのパラメーターを調整して、その効き具合を設定します。

D/R ブロック

9タイプ(Room, Hall, Chrc・・・)からエフェクトタイプを割り当てます。割り当てたエフェクトのパラメーターを調整して、その効き具合を設定します。

ノイズリダクションブロック

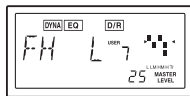
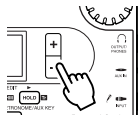
ノイズを除去するエフェクトです。パラメーターを調整して、その効き具合を設定します。

アウトプットレベルブロック

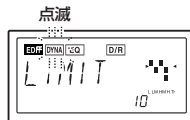
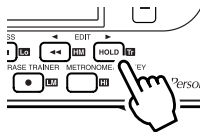
プログラムの出力音量を設定します。

- 1 プレイモードで+/-ボタンを使用して、エディットしたいプログラムを選びます。

* プレイモードとは？(→16ページ)

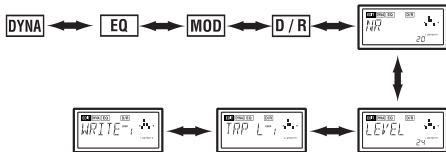
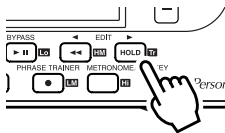


- 2 EDIT▶ボタンを押して、エディットモードに入ります。



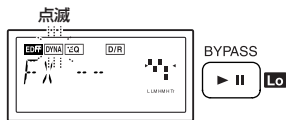
3 EDIT◀/▶ボタンで、エディットするエフェクトブロックを選択します。

EDIT◀/▶ボタンを押すごとに、下図の順でエフェクトブロックを選ぶことができ、選ばれているエフェクトブロックのアイコンが点滅します。

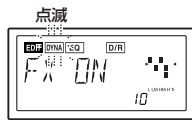


* エフェクトブロックがOFFになっているときは、エディットできません。エフェクトブロックをONにするには、EDIT◀/▶ボタンでエフェクトを選び、BYPASSボタンを押します。

エフェクトがOFF時の表示

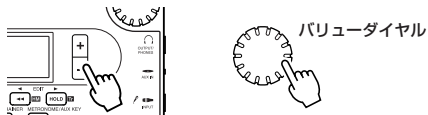


エフェクトがON時の表示



ここでは例として、D/R(ディレイ/リバーブ)のエフェクトブロックを選択してみましょう。EDIT◀/▶ボタンを押して、D/Rを選択すると、D/Rアイコンが点滅します。

4 選んだエフェクトブロックをエディットしてみましょう。エフェクトブロックに割り当てるエフェクトタイプを+/-ボタンで選び、バリューダイヤルでそのパラメーター値を設定します。



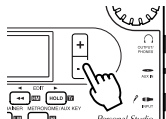
ここでは、先程選んだD/R(ディレイ/リバーブ)ブロックのパラメーターを変化させてみましょう。エフェクトタイプはそのまま(Room1)にして、音を出しながらバリューダイヤルを回してみましょう。リバーブのかかり具合が変化しますね。

- * EQ(イコライザ)を選んだときは、+/-ボタンで変更したい周波数を選び、バリューダイヤルで値を設定します。
- * ノイズリダクション、レベルを選んだときは、バリューダイヤルで値を設定します。
- * エフェクトタイプとパラメーターについては、31ページを参照してください。

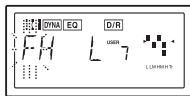
■ 作ったプログラムを保存しよう

あなたがエディットしたプログラムの内容は、別のプログラムに切り替えたり、電源を切ったりすると、エディット前の内容に戻ってしまいます。エディットしたプログラムは、ユーザープログラム(1～50)に上書きして保存しましょう。

- 1 まずプログラムに名前(最大5文字まで)を付けましょう。EDIT◀/▶ボタンを押して、プログラムのリネーム画面を出します。



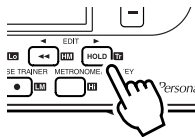
点滅



- 2 +/-ボタンで文字のカーソルを動かして(カーソルが点滅します)、バリューダイヤルで文字を選びます。

使用できる文字は、空白、0～9、A～Z、”、’、*、+、-、/です。

- 3 ▶ ボタンを押して保存画面を表示させ、バリューダイヤルを使って、保存先を指定します。ディスプレイには保存先のプログラム名が表示されます。



点滅



途中で保存を中止するときは、EDIT◀ボタンを押して、他の画面を選びます。

- 4 BYPASSボタンを押すと、プログラムが保存されます。保存が完了すると、ディスプレイに約1秒間“COMPL”(COMPLETE)と表示されます。



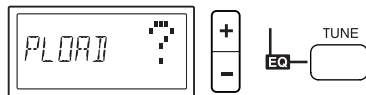
- * エディットしたプログラムをユーザープログラムに保存する場合は、上書きしても良いかどうかをあらかじめ確認してください。上書きしたプログラムは消えてしまいますので、ご注意ください。
- * プリセットプログラムには保存することはできません。

- 5 EXITボタンを押すと、プレイモードに戻ります。

● イニシャライズ(初期化)のしかた

本機すべての設定を、工場出荷状態(初期化)に戻す操作です。保存したユーザープログラムはすべて消えてしまいますので、ご注意ください。

- 1 TUNEボタンと+ボタンを押しながら、電源をONにします。ディスプレイに“PLOAD?”と表示され、初期化をしてもいいか聞いてきます。



中止する場合は、EXITボタンを押します。

- 2 BYPASSボタンを押すと、初期化が開始されます。ディスプレイには“LOAD” → “VERI” → “COMPL”と表示され、初期化が完了します。



■ バリュースダイヤルと+/-ボタンに各機能を割り当てよう

+/-ボタンとバリュースダイヤルを操作したときに、どの設定(機能)を変更させるかを、以下の3タイプから選び割り当てることができます。

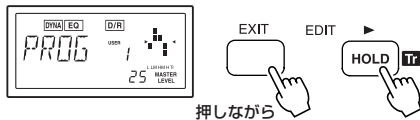
- ・バリュースダイヤル：マスターレベル設定
+/-ボタン：プログラム選択



EXIT ボタンを押しながら EDIT◀ ボタンを押します。ディスプレイに“M LEV”と表示されます。

* 電源を入れたときは、常にこの設定になっています。

- ・バリュースダイヤル：プログラム選択
+/-ボタン：マスターレベル設定



EXIT ボタンを押しながら EDIT▶ ボタンを押します。ディスプレイに“PROG”と表示されます。

- ・バリュースダイヤル：機能の割り当てはありません
+/-ボタン：プログラム選択



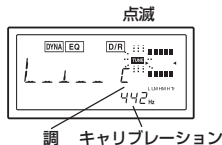
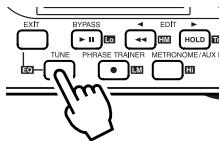
EXITボタンを押しながらBYPASSボタンを押します。キーロックとなり、ディスプレイに“LOCK”と表示され、+/-ボタン以外は動作しません。

* キーロック機能とは、演奏中の誤操作防止のための機能で、+/-ボタン以外のすべてのボタン(電源スイッチを除く)操作が無効になります。

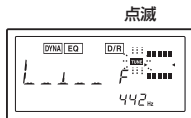
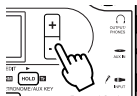
チューナーモード

ST5をオートチューナーとして使うモードです。INPUT端子に接続した楽器音を検知して、その音に一番近い音名と、その音とのズレをメーターで表示します。

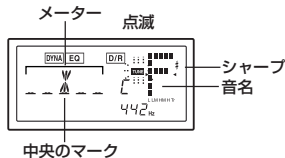
- 1 TUNE ボタンを押して、チューナーモードに入ります。ディスプレイに音名と楽器の調とキャリブレーション*が表示されます。



- 2 +/- ボタンを押して、自分の楽器に合う調に変更します。調の設定は、C、B♭、E♭、F の範囲で設定できます。



- 3 楽器を吹いてチューニングします。吹いた音に一番近い音名がディスプレイに表示され、その音に対して高いか低いかが15ステップのメーターで表示されます。マークが中央に来るように、楽器をチューニングしてください。



メーターは、基準の音程より高い場合は右側へ、低い場合は左側へ動きます。半音の表示は、「C♯、E♭、F♯、A♭、B♭」となります。

- 4 EXIT ボタンを押すと、プレイモードに戻ります。

* **キャリブレーション(基準ピッチ A の周波数)**
バリューダイヤルでキャリブレーションを「A=438Hz～445Hz」の範囲で設定できます。変更したキャリブレーション設定は、電源を OFF にしても記憶されています。

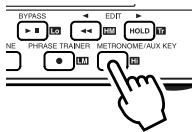
メトロノームモード

メトロノームパターンを一定のテンポで鳴らします。

- 1 METRONOME/AUX KEY ボタンを1回押して、メトロノームモードに入ります。

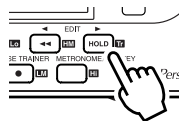
このモードに入ると、選ばれているパターンでメトロノームがスタートし、メトロノームアイコンが点滅します。メトロノームを停止するには、EXIT ボタンを押します。

* ミュート/バイパス、キーロック時はメトロノームモードに入れません。(→23 ページ)



点滅

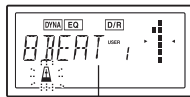
- 2 EDIT ◀/▶ ボタンを押して、メトロノームパターン、テンポ、レベル(音量)を選び、バリューダイヤルで設定をします。



バリューダイヤル

- ・メトロノームパターン：

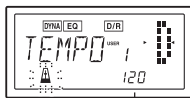
鳴らす音のパターンを設定します。パターン音色は、メトロノームのクリック音と、ドラムスの2種類があります。(→37 ページ)



点滅 メトロノームパターン



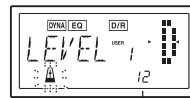
- ・テンポ：テンポを ♩=40~255 の範囲で設定します。



点滅 テンポ表示



- ・レベル(音量)：メトロノームの音量を0~30の範囲で調節します。



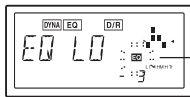
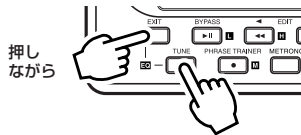
点滅 レベル表示



イコライザモード

現在選んでいるプログラムのEQ(イコライザ)の各バンドのゲインを、簡単にエディットすることができます。

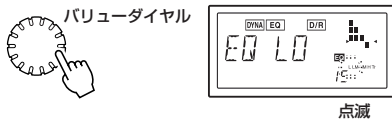
- EXIT ボタンを押しながら TUNE ボタンを押して、イコライザモードに入ります。
ディスプレイに "EQ LO" が表示され、イコライザアイコンが点灯します。



点滅

- * イコライザがOFFのプログラムでこの操作をすると、強制的にイコライザがONになります。

- 調整したいバンド(音域)を以下のボタンで選び、バリュウダイヤルを使ってゲイン(音量)を変えます。



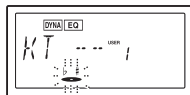
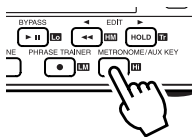
- ・低音域(EQ LO): [▶||] BYPASS ボタン
 - ・中低音域(EQ LM): [●] PHRASE TRAINER ボタン
 - ・中高音域(EQ HM): [◀◀] EDIT ◀ ボタン
 - ・高音域(EQ HI): METRONOME/AUX KEY ボタン
 - ・トリム(各音域全体の音量)の調節(EQ TR):
[HOLD] EDIT ▶ ボタン
- イコライザの設定が終了したら、EXIT ボタンを押してプレイモードに戻り、必要に応じて21 ページの操作によりプログラムを保存します。

- * 保存を行わずに電源を切ったり、他のプログラムに切り替えると、エディットした値は元の設定に戻ってしまいます。

AUX キーモード

AUX IN 端子から入力された音(CD や MD の演奏)に対して、移調(キートランスポーズ)をすることができます。

- 1 METRONOME/AUX KEY ボタンを2回押して、AUX キーモードに入ります(メトロノームモードから入るときは、METRONOME/AUX KEY ボタンを1回押して入ります)。ディスプレイに AUX キーアイコンが点滅します。



AUX キーアイコン

- 2 以下の各ボタンを使って、キートランスポーズを設定します。

- ・ **BYPASS** ボタン：トランスポーズの ON/OFF
- ・ **バリュースダイヤル**：トランスポーズの値を設定

キートランスポーズの可変域は、 ± 12 半音(± 1 オクターブ)です。

- * AUX キーモード中でも、+/- ボタンでプログラムの選択ができます。
- * キートランスポーズが ON のときは、モノラル出力となります。OFF のときはステレオ出力となります。
- * AUX キーモードに入ると、MOD(モジュレーション)と D/R(ディレイ/リバーブ)は、自動的に OFF になります。

- 3 EXIT ボタンを押すと、プレイモードに戻ります。

フレーズトレーナーモード

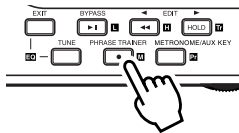
AUX IN 端子から入力される音(CDやMDの演奏)や、INPUT 端子に入力される自分の演奏を録音して、繰り返し再生するモードです。このとき、ピッチ(音の高さ)を変えずに、再生スピードだけを下げることができます。

- * フレーズトレーナーモードに入ると、MOD(モジュレーション)とD/R(ディレイリバーブ)は、自動的にOFFになります。

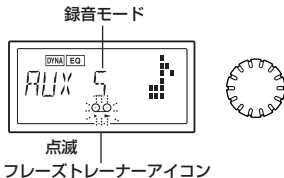
■ 録音の手順

1 PHRASE TRAINER[●]ボタンを押して、フレーズトレーナーモードに入ります。

このモードに入ると、フレーズトレーナーモードアイコンが点滅し、録音モードの選択画面が表示されます。



- * バイパス/ミュート、キーロック時はフレーズトレーナーモードに入れません。(→23 ページ)



- 2 バリュダイヤルを使って、録音モードを選択します。
録音モードには以下の4種類があります。

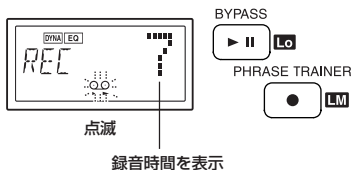


- **AUX S** : AUX IN 入力の高音質録音、録音時間 8 秒間
- **AUX L** : AUX IN 入力の低音質録音、録音時間 16 秒間
- **INPUT S** : INPUT 入力の高音質録音、録音時間 8 秒間
- **INPUT L** : INPUT 入力の低音質録音、録音時間 16 秒間

- * 録音モードの変更は、一度フレーズ録音をしてしまうとできなくなります。モードの変更をしたときは、一度他のモードに入ってから、もう一度フレーズトレーナーモードに入ってください。

3 録音モードが決まったら、[●]ボタンを押して録音をスタートします。

CD や自分の演奏で録音を開始したいところに来たら、[●]ボタンを押します。録音中は、録音時間が数値で表示されます。



- * フレーズは、モノラルで録音/再生されます。
- * 録音を途中で終了しない限り、選択した録音モードの最大時間まで録音します。

4 録音を終了したいところに来たら、[●]ボタンまたは [▶||]ボタンを押します。録音が終了し、自動的に繰り返し再生が始まります。

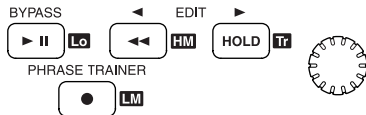
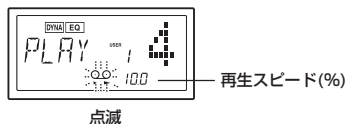


再生

録音が終了すると、自動的にそのフレーズが繰り返し再生されますが、以下のようなコントロールができます。

●再生スピードの調節

バリュウダイヤルを左に回すと、ピッチを固定したまま、再生スピードを変化させることができます。再生スピードは、100%から50%までの間で、100%—95%—90%と、5%ずつ減速できます。



●ホールド機能

再生中に[HOLD]ボタンを押すと、押した時点の音を保持する(鳴らし続ける)ことができます。もう一度押すと、再生が再開されます。

● 一時停止 / 再生

再生中に[▶||]ボタンを押すと、その位置で一時停止します。もう一度[▶||]ボタンを押すと、その位置から再生が再開されます。

● 巻戻し

再生中に[◀◀]ボタンを押すと、フレーズの巻戻しをします。一時停止中に[◀◀]ボタンを押すと、フレーズの先頭に戻ります。

● フレーズの消去

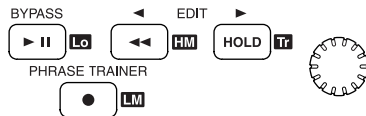
録音したフレーズを消去するときは、一時停止中にEXITボタンまたはMETRONOME/AUX KEYボタンを押します。

● プログラムの選択

再生 / 一時停止中に+ / - ボタンを押すと、エフェクトプログラムを変更、選択することができます。

■ 録音し直すときは

再生中に、録音したい位置で[▶||]ボタンを押して一時停止します。一時停止中は、AUX INやINPUTから入力されている音がモニターできるので、入力したいフレーズの頭出しができます。録音したいところでもう一度[●]ボタンを押し、録音を開始します。



エフェクトの解説

ST5には、エフェクトが以下の6ブロック用意されています。エディットモード(→18ページ)で+/-ボタンを押してエフェクトタイプを選び、バリューダイヤルでその変化の程度を調整します。

● DYNA(ダイナミクス)

入力信号を増幅したり圧縮したりして、音の大きさを変えたり音色に変化を付けます。

このブロックでは、以下の4種類のエフェクトタイプから1つを選んで割り当てることができます。

・ COMP(コンプレッサー)：

アタック音などの大きなレベルの音は抑え、減衰音などの小さなレベルの音は増幅し、サステインを得ます。バリューダイヤルで、増幅/圧縮の程度を調整します。

・ LIMIT(リミッター)：

レベルの大きな音が入力されたとき、ゲインをおさえて音量のバラツキをおさえます。バリューダイヤルで、リミッターの働くレベルを調整します。

・ OVDRV(オーバードライブ)：

アタック音のあるマイルドな歪みがかかります。バリューダイヤルで、歪みの強さを調整します。

・ DIST(ディストーション)：

ハードな歪みがかかります。バリューダイヤルで、歪みの強さを調整します。

● EQ(イコライザ)

周波数特性を変化させ、音質を変えます。

本機は4バンドのイコライザを内蔵しています。EQブロックをONにすると、4バンド同時に機能します。

・ LOW：

低域(約80Hz)のゲインを調整します。バリューダイヤルで、低域を調整します。

・ L-MID：

中低域(約320Hz)のゲインを調整します。バリューダイヤルで、中低域を調整します。

・ H-MID：

中高域(約1.26kHz)のゲインを調整します。バリューダイヤルで、中高域を調整します。

- **HIGH :**

高域(約 5.00kHz)のゲインを調整します。
バリューダイヤルで、高域を調整します。

- **TRIM :**

イコライザ全体の音量を調整します。
バリューダイヤルで、イコライザ全体の音量を調整します。

- **MOD(モジュレーション)**

入力信号に周期的な変化を加えることで、サウンドに空間的な広がり感や音色、音程の変化を与えます。
このブロックでは、以下の 12 種類のエフェクトタイプから 1 つを選んで割り当てることができます。

- **CHORS(コーラス):**

自然な音の広がり感や、厚みを得る効果です。
バリューダイヤルで、効果の深さを調整します。

- **VIBRT(ビブラート):**

ピブラフォンのような、音が揺れる効果です。
バリューダイヤルで、効果の深さを調整します。

- **FLNGR(フランジャー):**

ジェット機が上昇するときのようなサウンド効果です。
バリューダイヤルで、効果の深さを調整します。

- **PHASR(フェイザー):**

強いうねりを得る効果です。
バリューダイヤルで、効果の深さを調整します。

- **TREM(トレモロ):**

音が前後に動いているような効果です。
バリューダイヤルで、効果の深さを調整します。

- **PAN(オートパン):**

音が左右に動くような効果です。
バリューダイヤルで、効果の深さを調整します。

- **AWAH(オートワウ):**

音の強弱により、音質が明るくなったり、こもったりする効果です。
バリューダイヤルで、効果の深さを調整します。

- **FILT(フィルター):**

特定の周波数から上の音をカットします。
バリューダイヤルで、効果のかかる周波数を設定します。

- **PIT 1(ピッチシフター 1):**

ピッチ(音程)を変化させ、生音と混ぜて出力します。ピッチシフター 1 では、生音の音の方が大きく鳴ります。バリューダイヤルで、ピッチシフト量(半音単位で -24 ~ +24.d[デチューン])を変更します。

- **PIT 2(ピッチシフター 2):**

ピッチシフター 2 では、生音とピッチシフターの音は同じくらいの大きさで鳴ります。バリューダイヤルで、ピッチシフト量(半音単位で -24 ~ +24.d[デチューン])を変更します。

- **PIT 3(ピッチシフター 3):**

ピッチシフター 3 では、ピッチシフターの音の方が大きく鳴ります。バリューダイヤルで、ピッチシフト量(半音単位で -24 ~ +24.d[デチューン])を変更します。

- **PIT 4(ピッチシフター 4):**

ピッチシフター 4 では、ピッチシフターの音のみ鳴りません。バリューダイヤルで、ピッチシフト量(半音単位で -24 ~ +24.d[デチューン])を変更します。

- **D/R(ディレイ&リバーブ)**

演奏音にディレイ音を加えることで、ホールで演奏しているような効果が得られます。

このブロックでは、以下の9種類のエフェクトタイプから1つを選んで割り当てることができます。

- **ROOM1(ルーム 1)**

- **ROOM2(ルーム 2)**

室内で演奏したような効果が得られます。ROOM1 より ROOM2 の方が広い部屋のイメージです。バリューダイヤルで、リバーブのかかり具合を調整します。

- **HALL1(ホール 1)**

- **HALL2(ホール 2)**

ホールで演奏したような効果が得られます。HALL1 より HALL2 の方が広いホールのイメージです。バリューダイヤルで、リバーブのかかり具合を調整します。

- CHRC1(チャーチ 1)

- CHRC2(チャーチ 1)

教会で演奏したような効果が得られます。CHRC1 より CHRC2 の方が広い教会のイメージです。

バリューダイヤルで、リバーブのかかり具合を調整します。

- DL40～DL80(ステレオディレイ):

- DL100～DL900(ステレオディレイ):

- DL1000～DL2000(ステレオディレイ):

フィードバックのあるディレイ音を加えます。数字が大き
いほどディレイ音は遅れて鳴ります。

バリューダイヤルで、ディレイ音量を調整します。

● NR(ノイズリダクション)

ノイズ(一定の音量以下の小さな信号)をカットします。

バリューダイヤルで、ノイズをカットする量を調整しま
す。

● LEVEL(レベル)

各プログラムの音量を設定します。

バリューダイヤルで、各音量を調整します。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら、まず以下のことを確認してください。それでも症状が改善されない場合は、お近くの販売店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点までお問い合わせください。

■ 電源が入らない

- ・ 乾電池が入っていますか？
- ・ コンセントや本機に電源アダプターが正しく接続されていますか？

■ 音が出ない

- ・ ピックアップミュートやピックアップマイク、アンプやヘッドフォンはそれぞれ正しく接続されていますか？
 - ・ アンプの電源がONになっていますか？
 - ・ 接続コードの断線はありませんか？
 - ・ マスターレベルが“0”または小さくなっていませんか？
 - ・ エフェクトブロックの「レベル」が“0”または小さくなっていませんか？
 - ・ ミュート(エフェクトブロックが速い点滅)になっていませんか？
- すべてのエフェクトがOFFのときは、エフェクトブロックが表示されないので、ご注意ください。

■ AUX IN端子に接続した機器からの音量が大きい、小さい、音が出ない

- ・ 接続した機器の出力レベルを調節してください。接続する機器は、ライン出力ではなくヘッドフォン出力端子を接続してください。
- ・ フレーズトレーナーモードになっていませんか？
- ・ 抵抗入りの接続ケーブルを使用していませんか？

■ エフェクトがかからない

- ・ バイパス(エフェクトブロック全体が点滅)になっていませんか？
- ・ プログラムで使用するエフェクトがONになっていますか？モードによって使用できないエフェクト(MOD, D/R)があります。

■ エフェクト音が止まらない・急に大きくなる

- ・ OVDRV(オーバードライブ)やDIST(ディストーション)のエフェクトををかけて、スピーカーの近くで演奏していませんか？
- ・ マスターレベルを下げるか、バイパススイッチを入れてください。

プリセットプログラムリスト

No. 1 ~ 30は、各種ピックアップミュートに適した音色にイコライジングされています。

No. 31 ~ 50は各種エフェクトが入っています。

記載されている楽器やミュート名にこだわらず、自分に合った音色を選んでください。

No.	Name *1	コメント
1	TRP L	PM7/トランペット用
2	TRP M	
3	TRP S	
4	PTP L	PM9/
5	PTP M	ピッコロトランペット用
6	PTP S	
7	FH L	PM6/
8	FH M	フリューゲルホルン用
9	FH S	
10	HRN L	PM3/フレンチホルン用
11	HRN M	
12	HRN S	
13	TRB L	PM5/トロンボーン用
14	TRB M	
15	TRB S	
16	EUP L	PM2/ユーホニウム用
17	EUP M	
18	EUP S	
19	TUB L	PM1/チューバ用
20	TUB M	
21	TUB S	

No.	Name *1	コメント
22	MTP L	PM7/トランペット用
23	MTP M	
24	MTP S	
25	JTP L	PM7/トランペット用
26	JTP M	
27	JTP S	
28	JTB L	PM5/トロンボーン用
29	JTB M	
30	JTB S	
31	ECHO	エコー効果です
32	DELAY	ディレイ効果です
33	CHORS	コーラス効果です
34	LIMIT	リミッター効果です
35	COMP	コンプレッサー効果です
36	VIBRT	ビブラート効果です
37	FLNGR	フランジャー効果です
38	PHASR	フェイザー効果です
39	FILTR	フィルター効果です
40	TREML	トレモロ効果です
41	PAN	パン効果です

No.	Name *1	コメント
42	AWAH	ワウ効果です、音の強さで音質が変わります。
43	HN 8D	1オクターブ下の音が付加されます。高音楽器とのユニゾンに最適です。
44	HN 5U	5度上の音が付加されます。
45	HN 8U	1オクターブ上の音が付加されます。低音楽器とのユニゾンに最適です。
46	OCT D	1オクターブ下の音だけが付加されます。TpがTubaの音色になります。
47	OCT U	1オクターブ上の音だけが付加されます。TpがPiccolo Tpの音色になります。
48	OVDRV	オーバードライブ効果です。エレキギターのような音色になります。
49	DIST	ディストーション効果です。エレキギターのような音色になります。
50	THRU	弱いリバーブだけがかかります。エフェクトを作るのに便利です。

*1 表の中で使用されているL、M、Sの表記は、リバーブのかかり具合が「L=長い、M=中程度、S=短い」を表しています。

※ 工場出荷時、ユーザープログラムにはプリセットプログラムと同じものが入っています。

プリセット メトロノーム パターン

No.	Name	パターン
1	1/4-4	4分音符で1/4拍子
2	2/4-4	4分音符で2/4拍子
3	3/4-4	4分音符で3/4拍子
4	4/4-4	4分音符で4/4拍子
5	5/4-4	4分音符で5/4拍子
6	6/4-4	4分音符で6/4拍子
7	7/4-4	4分音符で7/4拍子
8	1/4-8	8分音符で1/4拍子
9	2/4-8	8分音符で2/4拍子
10	3/4-8	8分音符で3/4拍子
11	4/4-8	8分音符で4/4拍子
12	5/4-8	8分音符で5/4拍子
13	6/4-8	8分音符で6/4拍子
14	7/4-8	8分音符で7/4拍子
15	1/4-3	3連音符で1/4拍子
16	2/4-3	3連音符で2/4拍子
17	3/4-3	3連音符で3/4拍子
18	4/4-3	3連音符で4/4拍子
19	5/4-3	3連音符で5/4拍子
20	6/4-3	3連音符で6/4拍子
21	7/4-3	3連音符で7/4拍子
22	1/416	16分音符で1/4拍子
23	2/416	16分音符で2/4拍子
24	3/416	16分音符で3/4拍子
25	4/416	16分音符で4/4拍子

No.	Name	パターン
26	5/416	16分音符で5/4拍子
27	6/416	16分音符で6/4拍子
28	7/416	16分音符で7/4拍子
29	3DOT8	跳ねた3拍子
30	4DOT8	跳ねた4拍子
31	3SHFL	跳ねた3拍子(3連系)
32	4SHFL	跳ねた4拍子(3連系)
33	3SYNC	シンコペーションのある3拍子
34	4SYNC	シンコペーションのある4拍子
35	5/8-4	4分音符、5/8拍子
36	7/8-4	4分音符、7/8拍子
37	9/8-4	4分音符、9/8拍子
38	5/8-8	8分音符、5/8拍子
39	7/8-8	8分音符、7/8拍子
40	9/8-8	8分音符、9/8拍子
41	8BEAT	ドラムス パターン8ビート
42	8SHFL	ドラムス パターン8シャッフル
43	16BET	ドラムス パターン16ビート
44	16SHF	ドラムス パターン16シャッフル
45	BLUES	ドラムス パターン ブルース
46	FUNK	ドラムス パターン ファンク
47	JAZZ1	ドラムス パターン ジャズ1
48	JAZZ2	ドラムス パターン ジャズ2
49	BOSSA	ドラムス パターン ボサノバ
50	SAMBA	ドラムス パターン サンバ

仕様

- **エフェクト数：**
32種類(最大同時使用エフェクトブロック：6種類)
- **プログラム数：**
プリセットプログラム=50種類、ユーザープリセットプログラム=50種類
- **入力：**
インプット(標準モノラルジャック)、入力レベルスイッチ(Lo、Hi)、AUX IN(ミニステレオジャック)
- **出力：**
アウトプット/ヘッドフォン(標準ステレオジャック)
- **チューナー部：**
測定範囲
27.5Hz～2.093kHz(A0～C7)
キャリブレーション
A=438Hz～445Hz
- **メトロノーム部テンポ：**
♩=40～255
- **電源：**
電源アダプター(PA-D09)
または
単4アルカリ乾電池4本
連続使用可能時間
9時間(ヘッドフォン使用、バックライトOFF)

- **外形寸法(W×D×H)：**
119.5mm×75.7mm×26.9mm(突起部含む)

- **質量：**
133g(乾電池含まず)

- **同梱品**
パーソナルスタジオ ST5、プラグアダプター1個、電源アダプター PA-D09、ソフトケース、取扱説明書(本書)

販売地域によっては、電源アダプターが付属していない場合もあります。

- * 外観及び仕様は、改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。